

乾
章俊議員



● 観光客の平準化について ● 高齢者ドライバーの交通事故について

そのほかの質問
・くい打ちデータの改ざんについて
・旧料亭花月楼について

一般質問

問 来訪する観光客は、週末や祝日、そして夏休みに集中し大変混雑する。そこで、平日にもお越しただける仕組み工夫が最重要課題といえる。そのことが、年間を通しての安定した受入商業活動への道を開くことにつながり、採算性の向上、店舗の拡張や新規出店への意欲も膨らむ。平日の来訪者増の取り組みを強化すべき。如何か。

答 休日に集中しているファミリー層以外の観光客の増加を図る必要がある。高齢者や女性客に人気のある白山平泉寺やゆめおーれ勝山などを活用して知的好奇心を満たし、想像力を刺激するような着地型観光の提案を図っていく。また、インバウンドによる集客力を高めるため、奥越前エリア、各広域観光エリア、県内全自治体が連携して魅力アップを図るとともに、旅行事業者との商談会、営業等を強化することが必要。インバウンドを活用した観光客の平準化を図っていく。

問 高齢になると記憶力や判断力が衰えてくる。ブレーキとアクセルの踏み違い、高速道路の逆走、認知症など、高齢者ドライバーによるいたましい死傷事故が全国で頻発している。免許証の自主返納が一番望ましいが、生活の足として欠かせない面もあり、一律的な規制強化は難しい。当市の実情、対策を伺う。

答 平成27年10月現在、市内では高齢運転者の第1当事者事故が7件、高齢者が被害者となる事故が3件発生している。また、勝山市内の免許保有者の約3割が高齢者という現状。市では免許証の自主返納支援事業として、バスの無料乗車券を交付している。平成26年度に免許証返納制度を利用された方は52人、平成27年度も11月現在36人の方が利用している。勝山市交通対策協議会が中心となつて街頭啓発、勝山警察署の交通教室や講座、ドライブレコーダー貸出しによる個別の運転診断や安全指導を実施している。免許証自主返納制度の啓発や安全運転の周知徹底を図り、関係機関と連携して今後も交通安全対策に努める。

下牧
一郎議員



● マイナンバーの周知と利用について

そのほかの質問
・サイバー攻撃に対するセキュリティについて
・情報公開について

一般質問

問 マイナンバー制度は「国民の利便性の向上」「行政の効率化」「公平・公正な社会の実現」という、市民にとって大変重要な社会基盤となる制度です。そこで、①市民への周知方法を全庁体制で検討したのかを伺う。
②高齢者や障害者など情報取得が困難な情報弱者に対してはどのような方法で周知したのかを伺う。

答 ①現在、マイナンバー制度の周知に関する全庁的な対策本部は特に設けていないが、10月1日に定例部課長会議で、番号通知カードの発行に関することや利用範囲などを情報共有し、各窓口における対応の徹底を図った。
②希望がある団体、地区等へ職員が出前講座に出向き、制度全般及びカード利用について説明を行っている。また、高齢者や障害者に接する機会の多い民生委員やケアマネージャー、障害者相談員を対象とした説明会も行っている。

問 国のマイナンバー施策のロードマップの③とした③当市としての全体計画の説明を求める。また、当市は「子育て支援や身体障害者支援」を積極的に行っているが、④母子手帳、父子手帳、身体障害者手帳にマイナンバーを利用してこれまで以上に「手厚くて、きめ細やかな支援」を始めの考えがあるのかを伺う。

答 ③内閣官房が作成した地方公共団体関係のスケジュールに基づき、総務省関係システムの設計と開発を平成27年3月に、厚生労働省関係システムは平成27年9月に完了しており、現在はこちらの単体および庁内連係テスト作業を行っている。
今後は、平成28年1月から団体内のシステム連携テストの実施、平成28年度からは情報提供ネットワークシステムとの連携・統合運用テストを行い、平成29年7月から他の行政機関との情報連携を始める予定である。
④母子手帳、父子手帳、身体障害者手帳へのマイナンバー利用については、市民の利便性をどのように高めていけるか、また、利用範囲を広げることに伴うセキュリティ対策等、他市の利用事例も含め十分に研究・検討していく。